

1. 開催概要

展覧会名	特別展「上海博物館 中国絵画の至宝」	
開催施設名	会期	入場者数
東京国立博物館	25年10月1日～25年11月24日	62,378人

●開催概要

本展は、上海博物館の収蔵品の中から宋・元時代から明・清時代まで、約600年に渡る中国絵画を代表する名画40件を一堂に展示した。この展覧会によって、中国絵画の流れが一目で解る貴重な機会となった。

現存する作品がほとんどない北宋絵画のうち、文人画家王誥の作品など、中国伝統絵画の最高峰である宋元画を展示し、明時代に、蘇州で活躍した文人画家・文徵明や宮廷画家李在の作品を通し、中国都市文化の成熟を概観し、さらに明清時代における正統派の惲寿平やと個性派、呉彬のエキセントリックな作品を通して、中国の伝統絵画が到達した高みを本展の作品によってご覧いただくことができた。

展示作品40件のうち、19件が一級文物（国宝に相当）であり、質の高さが際立つ展覧会となり、本展の入場見込人数4万人のところ、6万人を超える入場者数を得た。また、アンケート集計結果（回収率1.09%）では90.9%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な意見をいただいた。

本展開催の意義について、平成25年10月23日の毎日新聞夕刊では、上海博物館と当館との信頼関係の成果と位置づけて、絵画をめぐる日中関係について、今後の研究関係を明確にした点でも意義深いものと評されることとなった。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

・入場料の無料化・軽減等

本展を貴重な教育・学習機会にしてもらいたいという希望を込めて、通常の特別展料金を徴収せず、当館入場料のみとして、さらには、とくに若年層の鑑賞機会の充実をはかるため、高校生並びに18歳以下、中学生・小学生以下は無料とした。

・展示作品の質・量の充実

美術品補償制度の適用により、借り受けることができた美術品の数40点のうち、特に重要な作品（国家一級文物）19点を展示することできた。

なかでも倪瓚の代表作「漁荘秋霽図軸」、および王蒙の代表作「青卞隱居図軸」は、日本に一点も伝来していない元末四大家の代表作であり、極めて質の高いこの2点を借り受けて来館者にご覧いただくことができた。

・教育普及活動の充実

本展開催期間中、以下の教育普及事業を実施して、展覧会について、より深い理解を得るように努めた。

■講演会等

10月12日（土）13:30-15:45 平成館大講堂

演題：「中国絵画史の正統と異端—上海博物館の名品から—」

講師：塚本麿充（東洋室研究員）

演題：「唐寅山水画の視覚形式—『春游女几山図』を例に—」

講師：李維琨（上海博物館書画部副主任研究員）

聴講者数：246人

上海展リレートーク

10月11日（金）18:00-19:00 東洋館第8室

演題：「上海博物館の中国名画、私の見方①」

講師：湊信幸（東京国立博物館客員研究員）

聴講者数：153人

10月25日（金）18:00-19:00 東洋館第8室

演題：「上海博物館の中国名画、私の見方②」

講師：宮崎法子（実践女子大学教授）

聴講者数：121人

11月8日（金）18:00-19:00 東洋館第8室

演題：「上海博物館の中国名画、私の見方③」

講師：塚本麿充（東洋室研究員）

聴講者数：173人

11月22日（金）18:00-19:00 東洋館第8室

演題：「上海博物館の中国名画、私の見方④」

講師：板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）

聴講者数：325人

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

ヒヤリハット事例や軽微なものも含め、事故等はまったくなかった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

●コンディション・チェックの実施について

- ・上海博物館において、輸送のための梱包前に作品状態の確認を両館学芸員により行った。
- ・東京国立博物館における作品展示、作品展示替時、作品撤収時に両館学芸員によりコンディション・チェックを行った。
- ・作品返却時には上海博物館において、最終的な作品状態の確認を両館学芸員により行った。

●輸送時の危険分散(輸送の分散、輸送時の警備など)

- ・作品保険評価額を鑑み、輸送便を2便に分散した。

●今回実施した特別の安全配慮について

- ・作品の梱包、輸送にあたり必要とされる作品への振動(空輸梱包に振動計の設置)、温湿度の管理を徹底した。
- ・輸送、陳列、撤収にあたり、国内、国外ともに十分な実績を備えた専門業者を使用した。
- ・輸送時については、とくに安全配慮に万全を期すため、日本側担当者は上海博物館から輸出空港までの中国国内の陸送、輸送航空便、東京国立博物館までの輸送に関して全て帯同随伴した。また展覧会終了後の返却輸送に関しても同じく全ての輸送に随伴した。なお、中国側の随伴も日本側と同様に行われた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本展のような質の高い展覧会を実現することが可能となったのは、上海博物館と東京国立博物館との長年の調査研究における交流と信頼によるものであるが、同時に東京国立博物館で開催された特別展「北京故宮博物院 200 選」(2012 年)、特別展「特別展「中国 王朝の至宝」で本補償制度が適用され、中国側からも本補償制度に対する高い評価を得た実績によるものである。本展は従来であれば、保険料の高額さのために開催が難しい展覧会であるが、本補償制度の適用を受けることでその実施が可能となり、また、全体の開催経費が軽減されることで、より広く国民に良質な文化に触れる機会を創出することができた。

本制度の適用については、当館ホームページの展覧会紹介ページならびに展覧会場入口のメイン看板上にその旨を記載した。

6. 展覧会の収支決算書

東京国立博物館

(収入)		(支出)		単位:万円
展覧会収入・その他収入	4,968	企画準備等基本経費 注)		3,580
主催社負担	330	設営・運営等会場関係経費		1,718
収入総額	5,298	支出総額		5,298

注)美術品保険料は補償制度の導入等により、当初総定額よりも、約1,664万円、軽減された。